

長期にわたる主要死因の市区町村別標準化死亡比データベースの作成

埼玉県立大学 延原弘章 三浦宜彦

【目的】主要死因について、地域的偏在の変遷の検討が可能となるよう長期にわたる市区町村別 SMR データベースを作成した。

【方法】SMR を算出する死因は、年間の死亡者数および死因分類の変遷を参考に選択した。期間については、国勢調査実施年を中心とする前後 2 年を加えた 5 年ごとの死亡を合計して算出することとし、死因分類の変遷と人口及び死亡数に関する電子データの利用可能性に基づき検討を行った。なお、SMR を算出する各期間内において市区町村の廃置分合等が行われた場合、前後のデータが取得できないため、対象期間における市区町村の廃置分合等情報の確認を行った。2000 年以降の総人口は e-Stat から、1995 年以前の総人口および全期間の死亡数については、統計法第 33 条の規定に基づき総務省より国勢調査、厚生労働省より人口動態調査死亡票の調査票情報の提供を受け、SMR 算出に必要な集計を行った。なお、本研究においては「日本における日本人」および「日本における外国人」の事象を分析対象とし、死亡数、人口ともに、性・年齢・市区町村のいずれかが不明のデータは除いた。

【結果】SMR の算出は全死亡および 41 死因（口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物、食道の悪性新生物、胃の悪性新生物、結腸の悪性新生物、直腸 S 状結腸移行部及び直腸の悪性新生物、肝及び肝内胆管の悪性新生物、胆のう及びその他の胆道の悪性新生物、膵の悪性新生物、気管、気管支及び肺の悪性新生物、乳房の悪性新生物、子宮の悪性新生物、卵巣の悪性新生物、前立腺の悪性新生物、膀胱の悪性新生物、白血病、糖尿病、高血圧性疾患、心疾患（高血圧性を除く）、急性心筋梗塞、その他の虚血性心疾患、心不全、脳血管疾患、くも膜下出血、脳内出血、脳梗塞、大動脈瘤及び解離、肺炎、慢性閉塞性肺疾患、誤嚥性肺炎、肝疾患、肝硬変（アルコール性を除く）、その他の肝疾患、腎不全、老衰、不慮の事故、交通事故、転倒・転落・墜落、不慮の溺死及び溺水、不慮の窒息、自殺、その他の外因）とした。期間は 1983～2017 年の 35 年間で 5 年ごとの 7 つの期間に区分した。

【結論】算出した SMR 等については所属大学の機関リポジトリにおいて公開の予定である。なお、本研究は JSPS 科研費 JP 18K10107 の助成を受けた。本研究は調査票情報を基に本研究者が独自に作成・加工したものであり、提供者が作成・公表している統計等とは異なることがある。